

令和5年度 第1回 リハビリ部会研修会レポート

記載者:老人保健施設ナイスケアまほろば 理学療法士 会田和弘

<日時> 令和6年2月25日(日)9:00~11:45

<会場> 山口県セミナーパーク 大研修室

<テーマ> 令和6年度介護報酬改定について

<内容>

9:40~10:30 講演・質疑応答

「令和6年度介護報酬改定における改定事項について」

講師:光田 一貴氏(山口県長寿社会課 介護保険班主任)

10:40~11:30 情報交換会

令和6年度の介護報酬改定に向けて、老人保健施設のセラピストとして求められる視点や役割を再考すべく、また、業務についての悩みが少しでも解消でき、今後の一助になって頂けたらという思いで本研修会を行った。

講義では令和6年1月22日に行われた厚生労働省の社会保障審議会での資料「令和6年度介護報酬改定における改定事項について」の中から、通所リハビリテーションに関わる改定項目についてご教授頂いた。

地域包括ケアシステムの深化・推進が求められる中で医療と介護の連携が注目されている。医療機関から退院後に介護保険のリハビリテーションを行う際に、事業所のリハビリ専門職が医療機関の退院前カンファレンスに参加し共同指導を行う事が評価される事を報告して頂いた。退院前カンファレンスに参加することで利用者の情報やリハビリテーションの目的等を共有することができる。情報を共有することで退院後早期から連続的で質の高いリハビリテーションを実施する事が可能であるという事を再認識した。

また、自立支援・重度化防止に向けた対応ではリハビリテーション・口腔・栄養を一体的に推進し、自立支援・重度化防止を効果的に進める観点から、通所リハビリテーションにおけるリハビリテーションマネジメント加算について新たな区分が設置された事を報告して頂いた。口腔・栄養アセスメントの実施や関係職種間での情報共有・活用が評価されることを知り、より広い視野と多職種との連携を通して利用者を支援していく事の重要性を感じた。

その他にも「良質なサービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」や「制度の安定性・持続可能性の確保」という視点に基づいた改定内容をご教授頂いた事で、今回の介護報酬改定の影響をより深く把握するきっかけとなった。

講義終了後は参加者7~8人毎のグループに分かれ、対面での情報交換会を実施した。昨今のコロナ禍の影響で他施設の方と対面で話し合う機会が少なかった事もあり、各グループとも活発な意見交換が行われていた。来年度の介護報酬改定を踏まえた各施設の取り組みや検討事項が共有できたと、好評であった。LIFE、リハビリテーションマネジメント、リハビリ会議について悩まれている施設が多かった。アンケート結果を考慮しながら、次回の研修にも活かしていきたいと考えている。

